

2024 年度 第 2 回運営推進会議

2025 年 3 月 29 日（土）
認知症対応型通所介護
渋谷区かなみの杜・渋谷
管理者 川村英詳

参加者：渋谷区かなみの杜・渋谷 管理者 川村 1 名
渋谷区かなみの杜・渋谷 居宅介護支援ケアマネージャー 1 名
利用者様のご家族様 B 様 1 名

運営推進会議の趣旨

I. 運営推進会議の目的

- 1.事業所運営の透明性の確保
- 2.サービスの質の確保
- 3.事業所による「困り込み」の防止
- 4.地域との連携の確保

II. 地域密着型サービスの役割

- ① 本人本位の支援
- ② 継続的な支援
- ③ 地域で暮らし続けることの支援
- ④ 地域との支えあい等を理念とする地域密着型サービスは、入居者・利用者のより良い暮らしを着眼点に本人と地域との関係を断ち切らない支援

上記の役割を担うため、事業所と地域との良好な関係を築き、事業所が提供するサービスが、住民ニーズに即した価値のある地域資源として機能していく必要がある。利用者がどのような暮らしを望み、これからサービスを利用するかもしれない住民が何を期待しているのかを知らなければならない。

運営推進会議は、事業所と地域との関係をつなぐ一つの手段であり、地域密着型サービスを「事業所と地域住民とが一緒に育てていくことを目的に行っていく。

3. 認知症対応型通所介護

● 2024 年 9 月 1 日～2025 年 2 月 28 日 までの状況

新規利用者	契約終了者	在籍者
3 名	2 名	4 名（男性 1 名・女性 3 名）

近隣のデイサービスの閉鎖に伴う新規の問い合わせをいただいている。

今後徐々に稼働率を伸ばしていけるように注力する。

● 平均年齢と平均介護度

平均年齢	平均介護度
82.0 歳	4.9

● 認知症高齢者日常生活自立度

自立度	I	II a	II b	III a	III b	IV	M
人数	0	0	0	0	0	4	0

I	「何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内および社会的にほぼ自立している状態」 基本的には在宅で自立した生活が可能なレベルです。
II a	「日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが家庭外で多少見られても、誰かが注意していれば自立できる状態」
II b	「日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが家庭内で見られるようになるが、誰かが注意していれば自立できる状態」
III a	「日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが主に日中を中心に見られ、介護を必要とする状態」
III b	判断基準「日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが夜間にも見られるようになり、介護を必要とする状態」
IV	「日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする状態」
M	「著しい精神症状や周辺症状あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする状態」

●職員体制

入職者・異動職員	退職者・異動職員	職員数
入職者＝0名 異動者＝0名	なし	6名 (管理者、生活相談員、介護職員2、看護師)

職員の体制は前年度から変わっていない。

●事故・苦情の発生状況

認知症対応型通所介護では介護事故は発生していない。

苦情は頂いていない。

サービスが終了して自宅に帰る直前に排泄の介助に入ってもらえると自宅での負担が減るためお願いしたいとのご要望があった。

●ご家族からの声など

	内 容
B 様	いつも大変お世話になっています。

参加者からの質問などなし